

2024 年度:こども園自己評価の報告書

本町こども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	研究テーマ「遊びや活動を通して人との関わりが豊かになる力を育む」 ～子ども一人一人が主体的に生き生きと遊べる環境作り～ として前年度に引き続き取り組んできた。人的環境として、保育者が子どもたちをどう理解し、関わっていくかということと子どもたちが主体的に活動するための環境作りについて、保育アドバイザー研修で学んだことを職員の共通理解とし、めざすべき方向を確認しながら、進めてきた。
健康支援	・保健年間計画に基づき、園児一人一人の健康状態を把握し、各年齢のクラス担任と看護師が連携を取り、健康管理を行なった。また、幼児クラスには看護師が、毎月保健の話をしていた。継続していくことで子どもたちもよく聞いて自分たちなりに考えている。 ・年長児に、プライベートゾーンの話をした。また、保護者に対しても保健日よりなど通して感染症、その他について発信している。
安全指導・危機管理	・火災、水害、地震、不審者対応など様々な状況に対応できるように毎月避難訓練を実施し、二次避難を想定しての訓練も実施した。職員がスムーズに消火器を扱えるように消防署から水消火器を借りて消火訓練を実施した。子どもたちにも避難訓練のたびに話をし、子ども自身が自分でもある程度の危険を回避できるよう繰り返し伝えている。 ・9月2日のこども園防災の日には、非常食を防災献立として提供し非常食を食べることも経験した。
食育の推進	・幼児3クラスを縦割りグループに分け、栽培するものを決めて育てた。収穫した野菜は縦割り保育の中で調理をして食べる経験をした。また、各クラスでクッキングの経験、給食の食材の皮むき、技能職員が各クラスに冬瓜などの給食材料の野菜を見せに行ったり、節分の豆の話をしたりすることで、食への関心を高めている。 ・毎日の給食を掲示し、同時にフエルトで作った食材を置き、親子で見たり、触ったりしながら何が入っているのか、食べてみてどうだったかなど会話を楽しみ、保護者にも関心を持ってもらっている。
子育て支援（在園児および地域）	・子どもとどうかかわったら良いか、悩みをどのように発信すればいいかわからない保護者も多いので、職員から話しかけるなど、できるだけ相談しやすい雰囲気を作るように心がけている。また、必要に応じて関係機関とも連携しながら支援を進めてきた。 ・地域支援のプレイルームや園児との交流などの利用者も多く、園児だけでなく、地域の親子にとっても園が居場所となっている。
インクルーシブ教育保育	・クラスの保育を考えると、遊びにくい子が興味のあることをクラス全体の遊びとして取り入れ、どの子どもが無理なく一緒に楽しめる機会が持てるよう配慮していく。 ・運動会や生活発表会の取り組みでは大人主体ではなく、子どもたち自身で考えるよう投げかけていくことで、主体的に取り組む姿がみ

	られた。子どもたちをどう理解し、支援していくか、職員間で何度も話し合い、確認する。学んだことを実践していく中で子どもの姿が変化することを実感でき、保育の方向性が見えてきつつある。
職員の資質の向上	・クラス、行事の取り組み、支援などで、一つずつ保育のねらいと取り組みについて話し合うようにしている。保育アドバイザー研修や人権研修などでも保育で大切にすることを全体で確認したことで園の保育で目指す方向性については共通認識ができてきてそれぞれの立場で前向きにこどもと向き合っている。こどもが主体的に活動できる保育環境も少しずつ整えることを意識して取り組んでいる。
幼保こ小中の連携・接続	・桜塚小学校と大池小学校の幼保こ小交流会に 5 歳児が参加。小学校の様子を知り、1 年生と交流する機会となった。 ・進学先の小学校とは保護者の了解のもと連絡を取り合い、引継ぎを行い、小学校からも園での子どもたちの様子を見に来てもらっている。 ・サウンドスクールでは 5 歳児がともだちこども園へ行き、ともだちこども園の 5 歳児と少し交流した。 ・近隣のこころの森保育園が園庭利用をされるようになり、引き上げ転所の子も多いので、引継ぎも行う。
評議員会	・評議員会では、園の教育保育について話をさせていただき、ご理解いただいた。2 歳児の公開保育では、できる限りクラス担任も参加して直接ご意見をいただいた。運動会や生活発表会では、子ども同士の関わりや保育環境、保育教諭の関わりなど見ていただけた。
その他	・教育保育実習生、看護実習生、園見学等で子どもたちは様々な人と出会いその中で人と豊かにかかわる経験をする機会になった。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
遊びの充実	クラスでの活動だけでなく、朝夕の合同保育やクラスで自由に遊びを選んで活動していくときの展開が豊かになるように、職員一人一人が年齢に合わせた遊びの研究をし、レパートリーを増やして提供していく。
教育保育内容の発信と確認	教育保育の取り組みについてはおたよりの配信やクラスノート、ドキュメンテーションの掲示等行っている。理解してくれている保護者が大半ではあるが、わかりにくいという声もあり、伝え方の見直しと工夫、またちゃんと伝えたいことが伝わっているかの確認をしていく。

令和 7 年（2025 年）3 月 31 日

豊中市立 本町こども園

園長名 長谷川 久美子